

2026 年 10 月 2 日

Press Release

報道関係・教育担当記者 各位

南山学会主催
2026 年度南山学会シンポジウム

助け合う人間は、なぜ戦うのか
—考古学・心理学・人類学から探る「協力」と「争い」の起源—

開催のお知らせ

平素は、本学の広報活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さてこのたび、本学における研究活動の促進を目的とする南山学会では、「助け合う人間は、なぜ戦うのか—考古学・心理学・人類学から探る「協力」と「争い」の起源—」と題し、2026 年度南山学会シンポジウムを下記のとおり開催する運びとなりました。つきましては、取材、報道等におきましてお取り扱いいただき、広く一般に周知いただければ幸いです。

なお、恐れ入りますが、取材につきましては、事前に南山学会事務局（南山大学研究推進課）まで、ご連絡をお願いいたします。

記

テーマ：助け合う人間は、なぜ戦うのか

—考古学・心理学・人類学から探る「協力」と「争い」の起源—

日時：2026 年 10 月 28 日（水） 15：00～17：35

開催形式：対面形式（S 棟 S21 教室）

司会：南山大学 経済学部 准教授 小林 佳世子

報告者および報告タイトル：

(1) 名古屋工業大学 工学研究科 教授 小田 亮 氏

「ヒトはなぜ他人を助けるのか？—理論と実証研究—」

(2) 高知工科大学 経済・マネジメント学群 教授 三船 恒裕 氏

「集団内の協力と集団間の攻撃：最小条件集団の内集団バイアス」

(3) 南山大学 人文学部 教授 中尾 央

「過去の争いをどう理解すればよいのか」

趣 旨 :

人は、なぜ他者を助けるのでしょうか。

そして、共感し、助け合う能力を進化させた人は、なぜ争うのでしょうか。

近年、社会心理学、進化心理学、動物行動学、人類学、考古学、脳神経科学、経済学などの幅広い分野で、人間の協力行動や利他性、争いや紛争の起源について、多様な実験研究や実証研究が蓄積されています。これらの知見は、人間の本性を理解するだけでなく、現代社会における分断や対立、協力のあり方を考える上でも重要な示唆を与えています。

本シンポジウムでは、考古学、心理学、人類学といった異なる視点から研究を進める第一線の研究者をお迎えし、人間の持つ利他性と利己性、協力と争いの根底にあるメカニズムについて議論します。分野横断的な対話を通して、人間社会における協力と対立、そしてヒトという生き物の根源について、理解を深める機会にしたいと考えています。

そ の 他 : 参加費無料 (事前申込制)

以下フォームより事前にお申し込みください。

<https://app.nanzan.ac.jp/regform/regist/univ/kenkyu/2026nanzangakkai>

※申込期限 : 2026 年 10 月 16 日(金)

以上

2026年度南山学会シンポジウム

助け合う人間は、なぜ戦うのか

—考古学・心理学・人類学から探る
「協力」と「争い」の起源—

参加費
無料

日時:2026年10月28日(水) 15:00-17:35

会場:南山大学 S棟 S21教室

◆報告Ⅰ 15:20~15:50

ヒトはなぜ他人を助けるのか？

—理論と実証研究—

名古屋工業大学 工学研究科

教授 小田 亮 氏

◆報告Ⅱ 15:50~16:20

集団内の協力と集団間の攻撃:

最小条件集団の内集団バイアス

高知工科大学 経済・マネジメント学群

教授 三船 恒裕 氏

◆報告Ⅲ 16:30~17:00

過去の争いをどう理解すればよいのか

南山大学 人文学部 教授 中尾 央 氏

◆ラウンドテーブル 17:00~17:30

◆司会

南山大学 経済学部

准教授 小林 佳世子 氏

参加を希望される方は、

10月16日(金)までにQRコード(右側)よりお申込みください。

※南山大学の教職員および学生の方はPORTAアンケートよりお申込みください。



お問い合わせ先

南山学会事務局(南山大学研究推進課)

E-mail: kenkyu-support@nanzan-u.ac.jp

TEL: (052) 832-3686